



# ドクター板東の メディカルリサーチ

Vol. 51

～勝負とは 瞬時に対応 するドラマ～

<http://hb8.seikyou.ne.jp/home/pianomed/>

2月中旬、私がちょうどアイススケートのマスター大会に参加していたとき、バンクーバーオリンピックが始まった（図1）。世界のアスリートが参集し、熱い闘いが繰り広げられた。テレビ観戦しながら、声援を送ったり、拍手したり、叫んだりする人も多かったのではないだろうか。

ウインターリオリンピックである冬季五輪は、4年に一度しか巡ってこない。それだけに、勝負にかける意気込みや準備は尋常ではない。しかし、本番ではハプニングも起こりうる。今回、印象的だったことに触れてみたい。

## スピードスケート

スピードスケート男子500mでは、長島圭一郎が銀（図2）、加藤条治が銅メダルを獲得できた。素晴らしい。本当によかった。前回のトリノではメダルがゼロ。雪辱を果たし、お家芸復活をアピールできたと思う。

## 韓国の強さ

500mの銀と銅は日本選手がゲットし、優勝者は韓国のモ・テボン選手だった。つまり、東アジアで

本レースでは製氷車が故

に一度しか巡ってこない。それだけに、勝負にかける意気込みや準備は尋常ではない。しかし、本番ではハ

ブニングも起こりうる。今度は、印象的だったことに触れてみたい。

## 障害

待たされた選手は、コンディション調整が非常に難しい。当初、金メダル候補が10名いるとされていたため、微妙な違いで順位に入れ替わった可能性がある。

両選手は予測できない事態の中でも、うまくコンディションを調節できたのである。

スピードスケート男子500mでは、長島圭一郎が銀（図2）、加藤条治が銅メダルを獲得できた。素晴らしい。本当によかった。前回のトリノではメダルがゼロ。雪辱を果たし、お家芸復活をアピールできたと思う。

スピードスケート男子500mでは、長島圭一郎が銀（図2）、加藤条治が銅メダルを獲得できた。素晴らしい。本当によかった。前回のトリノではメダルがゼロ。雪辱を果たし、お家芸復活をアピールできたと思う。

スピードスケート男子500mでは、長島圭一郎が銀（図2）、加藤条治が銅メダルを獲得できた。素晴らしい。本当によかった。前回のトリノではメダルがゼロ。雪辱を果たし、お家芸復活をアピールできたと思う。

図1

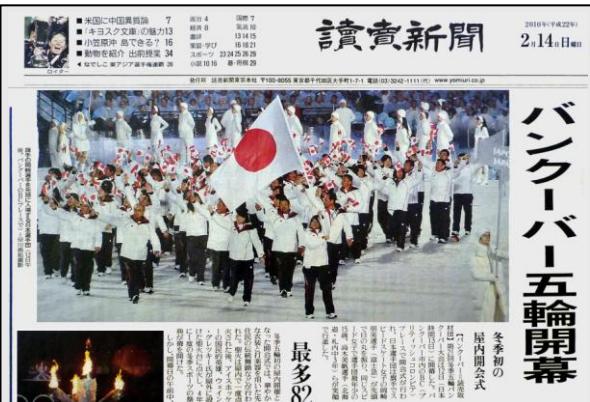


図2

上位を独占したことになる。また、1000mでも、デービスに続いて、銀メダルを奪取した。なお、同選手は韓国で4番目に速い選手であるとされ、選手層の厚さに驚愕してしまう。

同部門で2個のメダル獲得は、韓国初のことだった。しかし、私は以前から、こんな優れた韓国スケーターの出現を予想していた。その理由として、10年前から歴史を紐解いてみると、おのずとわかる。

というには、スピードスケートには、1周400mのロングと、111mのショートトラック（SS）とがある。従来、韓国のは強く、間違いなくロングでもトップレベルの選手が台頭していくハズと確信していた。

予想通り、今回のSSでも、韓国選手の金メダリストが続出。なぜ、これほど強いのか。これに関連して、私が韓国で経験したことについて触れてみたい。

約15年前、韓国に出張した際、ロッテワールドを訪れた（図3）。すると、施設の中にあるスケート場で、SSの練習を行っていた。指導者から厳しい叱咤激励に耐え、歯を食いしばって低い姿勢を保ち続けるシ



図3

